

横丁の空間構成と景観要素が歩行者回遊行動に与える影響に関する研究

19-3A234 中井 太郎
指導教員：西村 亮彦

近年、駅前における密集地帯をはじめとする飲み屋横丁の在り方が注目されている。横丁は地域の人の拠り所になっており、外国人観光客が訪れるスポットにもなっている。一方、再開発事業で街の利便性が向上する中で、安全面の観点から飲み屋横丁が地域から姿を消し、その地域の魅力が失われつつある。そこで都内の飲み屋横丁を対象に、現地調査、来放者へのアンケート、追跡調査を実施した上で、横丁の街区構成・景観構成が歩行行動に与える影響を明らかにするものである。また今後の再開発事業において地域の風土を理解した上で、地域の魅力を残すような再開発が重要であることが明らかになった。

キーワード：横丁、飲み屋街、景観、空間構成、回遊行動

1. はじめに

(1) 研究の背景と位置づけ

東京には横丁と呼ばれる裏通りの飲み屋街が数多く存在する。戦後、空襲で焼け野原になった大都市の駅前などでは、露店や屋台が集まって闇市を形成し、長い年月とともに業態を変えながら、今日の横丁のルーツとなっている。横丁は地域の人々にとっての拠り所として機能しているだけではなく、迷路のような街路の空間構成や赤提灯に代表される独特の景観要素が人を惹きつけ、外国人観光客や若者が訪れるスポットとしても人気を集めている。

一方、近年、横丁をはじめとする駅前の密集市街地では、再開発事業が進められている。再開発は、街の利便性が向上する一方で、画一的なデザインになりやすく、従来のその土地の魅力を失ってしまう危険性を秘めている。特に横丁は、その街を印象付ける重要な構成要素となっていることが多く、防災等の観点から保存が難しい場合も、地域の風土を理解した効果的な整備が望まれる。そのためにも、横丁の空間的な特性を把握した上で、その景観が人々の行動に与える影響に関する知見を蓄積することが望まれる。

飲み屋街のサードプレイスとしての役割について論じた木村ら¹⁾や、店構えが人々に与える印象について論じた吉村ら²⁾など、横丁・飲み屋街に関する研究は散見される。しかしながら、横丁を構成する街路の空間的な特徴や景観特性が、人の行動や動きに与える影響を論じた研究は見当たらない。

本研究は、都内を代表する5か所の横丁を対象に、歩行環境や来街者の来訪目的に着目しながら、横丁の街区構成・景観が人の行動にもたらす影響を分析するものである。

(2) 研究の目的

本研究では都内を代表する5ヶ所の横丁を対象に、①対象地の街区構成・店舗構成の現状を把握し、②景観構成要素の特徴を把握した上で、③来街者の動きや属性・来訪目的を明らかにすることで、④横丁の街区構成・景観が人の行動に与える影響を明らかにする。

(3) 研究の対象

本研究の対象は、都内を代表する横丁の中から、JR東日本の乗客数数の統計を参考に、一日の平均乗客数が10万人以上の駅近くに存在する横丁を選択した(表-1)。

表-1 研究対象エリア

最寄駅	横丁名称
大井町	東小路・平和小路・すずらん通り
蒲田	バーボンロード
新宿	思い出横丁・ゴールデン街
渋谷	のんべん横丁
三軒茶屋	三角地帯



写真-1 思い出横丁の街区構成

写真-2 思い出横丁の景観

(4) 研究の方法

- 1章：はじめに
- 2章：街区構成・店舗構成の把握（ゼンリン住宅地図や案内マップ等を用いて横丁の全体像を把握した上で、目視による現地踏査を実施）
- 3章：景観構成要素の把握（路上設置物・店構え、音、扉の開け閉め、の目視調査を実施）
- 4章：歩行者の回遊行動と印象の分析（来街者に対する

2. 街区構成・店舗構成の把握

(1) 調査内容

研究対象5箇所におけるゼンリン住宅地図, 及び案内マップを収集し, 各横丁の範囲と街区構成を把握した上で, 現地調査を実施した。

(2) 調査結果

i) 蒲田 (バーボンロード)

幅員 4m以上の直線の道が多く存在する。店舗について, 居酒屋が大半を占めるがスナックや Bar 等が混在しており, 多種にわたって建ち並ぶ (図-1)。

ii) 三軒茶屋 (三角地帯)

幅員 2m以下の道が存在し, ④~⑥の路地では, 周囲に配慮しながら歩行することが必要であった。店舗構成では居酒屋, Bar が多くを占めている (図-2)。

iii) 新宿 (思い出横丁)

①③⑤幅員は 2m以下と狭い路地がある一方で幅員が 4 m以上②で構成されている。駅, 大通りから近い⑤では交通量が多く, 出入口も多いため様々な箇所からの侵入が誘発され, 歩きにくくなっている (図-3)。

iv) 渋谷 (のんべい横丁)

のんべい横丁には路地が2カ所しか存在せず出入口が明確である。幅員が狭く, 直線の道で構成されている。①の道は公園通りと旧大山街道を繋ぐ抜け道となっているため, 交通量が多いことが分かった (図-4)。

v) 大井町 (すずらん通り, 東小路, 平和小路)

幅員は 2m台がほとんどで直線の道が多い。地図には記載されない路地が存在し, 従業員の抜け道として利用されている。になっている。スナック, 食堂, 立ち飲みといった多様なジャンルが建ち並ぶ横丁になっている (図-5)。



図-1 蒲田 (バーボンロード) の街区・店舗構成



図-2 三軒茶屋 (三角地帯) の街区・店舗構成



図-3 新宿 (思い出横丁) の街区・店舗構成

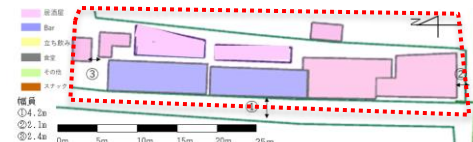


図-4 渋谷 (のんべい横丁) の街区・店舗構成



図-5 大井町駅 (東小路・すずらん通り) の街区・店舗構成

3. 景観構成要素の把握

(1) 調査内容

対象地5箇所における目視調査を実施し, 横丁の景観構成として, 各店舗の路上設置物, 店構え, 音, 出入口等に関する情報を収集・整理した。

(2) 調査結果

i) 路上設置物

蒲田では木を配置している店舗が多く理由として幅員が広く看板以外も設置可能であることが考えられる。

三軒茶屋では, 喫煙可能な店舗が多数存在するため, 「その他」に属するたばこスタンドが目立った。また, 大井町でも「その他」の割合が多いが, その内容はメニュー台, 換気扇, 冷蔵庫等が設置されており, 障歩きにくい要因となっていた。

渋谷では, 路上設置物「なし」の割合が多い。幅員が狭く設置物を置く余裕がないことが考えられる。

新宿では椅子・テーブルが多かったが, 歩行空間の妨げにならないように, 店前に沿って設置していた。

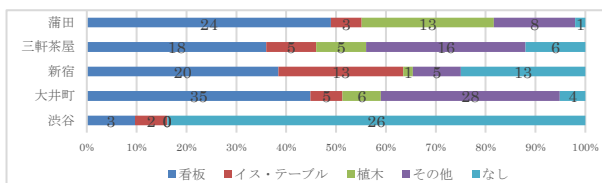


図-6 路上設置物の比較

ii) 店構えの比較

対象地による利用用途の違いが明らかになった。主に三軒茶屋、大井町、渋谷、新宿で見られた。

三軒茶屋では近くにシアターがあることから、宣伝ポスターが多く、大井町では日除けが多く、下に路上設置物を置くことで雨よけ対策にもなっている。渋谷では、店内状況をわかりにくく演出しているため閉鎖的な空間がつくられている。新宿では、赤提灯が横丁内を良くする役割として配置されていた(図-7)。

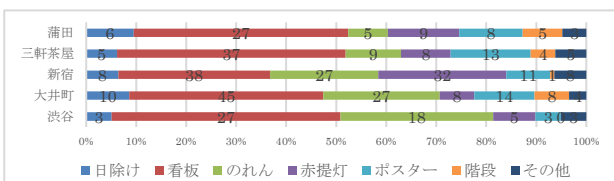


図-7 店構えの比較

iii) 聞こえてくる音の比較

幅員、店舗ジャンルによる違いが明らかとなった。新宿、渋谷、三軒茶屋は幅員が狭く、店舗間の距離が近いことから、作業音、会話がよく聞こえた。また、大井町では、スナックからのBGMがよく聞こえた。

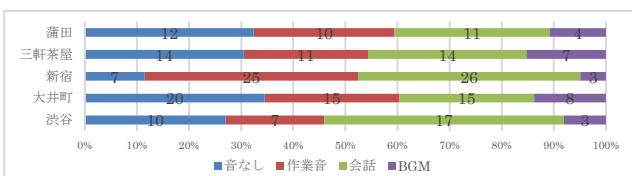


図-8 聞こえてくる音の比較

iv) 出入口の比較

賑わい方の違いが見られた。新宿、三軒茶屋、蒲田、では扉を常時開放していることが多いため横丁内の賑わいを外部確認することができた。渋谷、大井町では開け閉めが多く外からは賑わいを確認が困難であった。

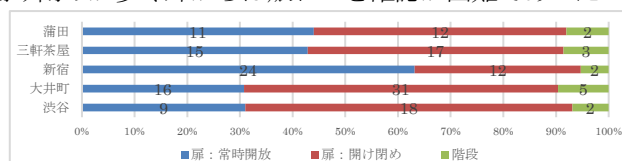


図-9 出入口の比較

4. 歩行者の回遊行動と印象の分析

(1) アンケート調査

蒲田、三軒茶屋、新宿を選択、各30人ずつを対象にアンケートを実施した。

表-2 横丁に訪れる理由・初めてお店を選ぶ基準

横丁に訪れる理由	蒲田	三軒茶屋	新宿	初めて入るお店の基準	蒲田	三軒茶屋	新宿
経路の明確さ	13	16	17	料理がおいしそう	6	15	17
古い形跡がある	13	10	4	臭いお酒がありそう	17	9	9
店舗のジャンルの幅が広い	13	8	2	価格が安い	19	13	14
職場・学校から近い	6	6	1	店内の様子が見渡せる	8	13	8
駅から近い	4	6	1	店内が広く	9	10	12
地味なような古い建	5	7	7	店舗に特徴がある	11	9	8
通りが広い	0	3	0	店の名前	4	6	5
通りが狭い	3	6	4	店名・メニューが面白い	7	3	4
好きなお店・行きつけのお店がある	10	5	7	SNSやメディアで話題になっている	3	7	2
料理がおいしそう	3	2	3	店の評判・口コミ	2	9	6
SNS・メディア等で話題になっている	5	2	2	料理が安く	6	0	3
その他	0	1	5	料理さんがたくさんいる	1	5	0
見通しの良い通り	7	2	0	店舗が写り映える	8	7	5
				好きな音楽が聞こえてくる	6	5	3
				店内が静か	0	1	2
				その他	0	1	2

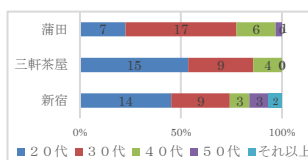


図-10 年齢の比較

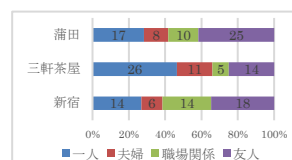


図-11 同伴者の比較

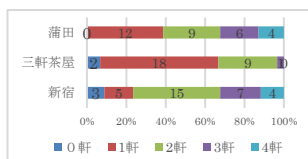


図-12 訪問件数の比較

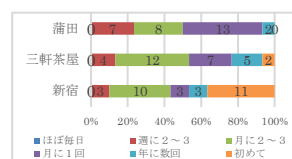


図-13 来訪頻度の比較

i) 蒲田 (バーボンロード)

横丁を訪れる理由については、店舗の店構え、ジャンルの多様性に多くの票が得られた(表-2)。行きつけのお店を回答していただくと常連さんの方が多く、来訪頻度でも分かった(図-13)。年齢層では30, 40代が多く友人と横丁を訪れることが多い傾向がある。

ii) 三軒茶屋 (三角地帯)

横丁を訪れる理由について、建物の雰囲気、ジャンルの多様性に多くの票が得られた。その他にも、迷路のような細い道も票が入り街区構成にも注目している人が一定数いた。店内の様子が見える項目にも多くの票が入り店構えの重要性も分かった(表-2)。

年齢層が若く20代がめっただったそのためSNSで話題になっている店が多くの人気を集めた。一人飲みをしている人が多くはしごの軒数は1, 2件と少ないことが分かった(図-12)。

iii) 新宿 (思い出横丁)

横丁を訪れる理由については、建物の雰囲気、路地に関する項目、その他に票が入った(表-2)。その他は観光の回答が多かった。来訪頻度では初めて来た人が目立った(図-13)。初めて入る店舗において、料理に関すること以外にも店内の様子がわかる項目に多くの票が入った。

(2) 追跡調査

来街者の回遊ルート把握するために追跡調査を実施した。蒲田、三軒茶屋、新宿で各60人を対象に歩行者行動、一時的行動、歩行スピード、横丁を出る時間と店舗に入るまでの時間、入った店舗、立ち止まった箇所のデータを集めた。

なお、当初5箇所での調査を予定していたが、渋谷では現地調査を実施中、店舗のスタッフに注意され調査を中止することとなった。また、大井町では、店前、横丁入り口にキャッチ、女性スタッフの呼びかけが多く、空間構成・景観構成以外の影響が大きいため、調査を対象外とした。



図-16 蒲田 (一時的行動)

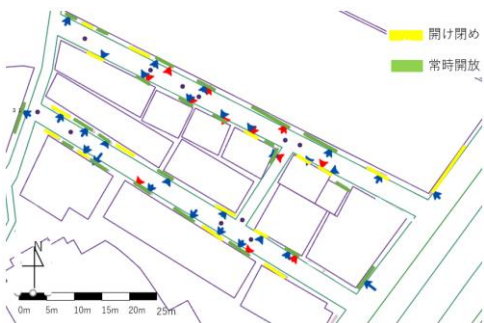


図-17 三軒茶屋 (一時的行動)



図-18 新宿 (一時的行動)

(*凡例 | 赤: 店舗に入る 青: 店を見る 点: 立ち止まる)

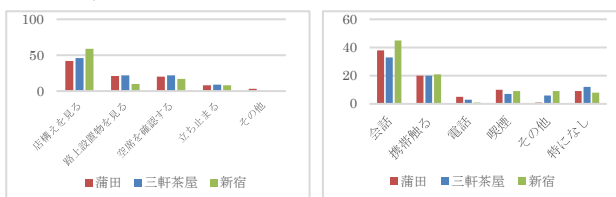


図-19 歩行行動

図-20 一時的行動

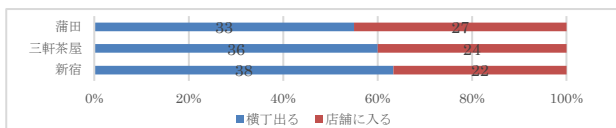


図-21 横丁への出入り

表-4 平均歩行速度

通常時平均	蒲田	三軒茶屋	新宿
88(m/min)	69(m/min)	74(m/min)	67(m/min)

i) 蒲田

赤の矢印が単体で存在しており、常連の多い蒲田では店に直行する人の動きがよく見られた(図-16)。十字路で立ち止まることが多く見られ、近くには集客率の高い人気店が存在した。路上設置物では、比較的大きな看板が設置され目立つようにたっていた(図-20)。また喫煙、携帯を触り店を探すなどの歩行行動も見られたため歩行スピードが遅くなる結果になったと考えられる(表-4)。

ii) 三軒茶屋

歩行行動では、特に行動しない人が多かった。横丁に入るが店舗に入らず横丁を出るの割合が多かった(図-21)、(図-22)。理由としては、通り抜けを目的とした来街者が多く歩行スピードでは、他の横丁と比べて速い数値が出た(表-4)。

iii) 新宿

歩行中では、その他の割合が多かった。その他において、外国人観光客による撮影が多かった。店構えをみる割合も多く、理由としては扉を常時開放しているため店内が見やすく、赤提灯、のれん、幅員の広い路地では外飲みできる店が多く視線を集め、店主の手元が見える店舗は、人の動きにも多くの視線が集まった。

5. まとめ・考察

街区構成・店舗構成の把握では、飲み屋横丁内の幅員が2m以下で構成されている傾向があり、店舗構成では居酒屋のみで構成されているのではなく、食堂、Bar、スナックなど幅広い店舗構成を確認することができた。

街路と景観構成要素の把握では、地域特性がもたらす結果となった。顕著に現れたのが路上設置物と店舗構成で、幅員が広い路地では、目を引く路上設置物(看板、椅子テーブル、植木)が増加する傾向にあることが分かった。また渋谷の店構えはのれん、出入りが閉まっていることが多く閉鎖的な空間になっている。一方新宿では、横丁内を照らすため出入りを常時開放し、赤提灯を多く設置しており、横丁内の景観に大きく関係していることが分かった。

歩行者の回遊行動と印象の分析では、建物の雰囲気や街路が歩行行動に影響を及ぼすことが分かった。

アンケート調査で横丁を訪れる理由では、建物の雰囲気が多く回答され、また店舗ジャンルの広さ、迷路のような細い道に好印象をいただき飲み屋横丁に来ていることが分かった。追跡調査では、どの横丁内でも歩行スピードが通常時と比較して遅いことが分かった。要因としては店舗の店構え、路上設置物の注目度によるものと考えられる。

以上のことから、飲み屋横丁の街区構成、景観が人の歩行行動に大きく影響を与えていることが分かった。

参考文献

1) 木村 毅, 松本 邦彦, 澤木 昌典谷: サードプレイスとしての立ち飲み屋に関する研究, 日本都市計画学会関西支部 研究発表会講演概要集, 12 巻, p.69-72, 2014